

展示

観賞温室第2室 企画展示

- 11月20日(水)～12月26日(木)
「クリスマス展」
- 1月4日(土)～2月16日(日)
「新春 江戸の園芸展」

観賞温室第3室 住宅内展示

- 11月20日(水)～12月8日(日)
「ハーブアラカルト」
出展: ジャパンハーブソサエティ新潟支部
- 12月10日(火)～12月26日(木)
「クリスマスドライフラワー」
出展: フラワースクールはな舞
- 1月4日(土)～1月19日(日)
「切り絵(花と野菜)」
出展: 本間雅子

教室

花と緑の教室

会場(または集合場所): 花と緑の情報センター

※要申込(開催日の1カ月前から電話受付)

- 12月7日(土) 10:00～11:30
「クリスマス寄せ植え」
定員: 15名 参加費: 1,500円 講師: 林 寛子(県立植物園)
- 12月7日(土) 13:30～15:00
「クリスマス寄せ植え」
定員: 15名 参加費: 1,500円 講師: 久原泰雅(県立植物園)
- 12月8日(日) 10:00～11:30
「クリスマススワッグづくり」
定員: 15名 参加費: 1,500円 講師: 榎舎道子(Plink・Plonk)
- 12月15日(日) 10:00～11:30
「ミニ門松づくり」
定員: 15名 参加費: 700円 講師: 田中良明(県立植物園)

クリスマス夜間開園 12月21日(土)・22日(日)・23日(祝・月)・24日(火)

温室開館時間を19:30まで延長(入館締切19:00)

夕方に降により一層輝きを増すイルミネーションの世界をお楽しみ下さい。

★12月22日、23日はクリスマスナイトコンサート

- 22日(日) 18:00～ 「バリチューバアンサンブル」
出演: タンプルヴァッソ
- 23日(祝・月) 17:30～ 「クラリネットオーケストラ」
出演: クラコン

★4日間限定クリスマスプレゼント

- 開館より先着300名に花の種プレゼント
- 16時以降入館の方にミニプレゼント
(数量限定)

15th ANNIVERSARY 開園15周年記念



温室入館無料デー 12月1日(日)

当園は12月1日で開園15周年を迎えます。これまでの皆様からのご愛顧に感謝申し上げます。この日はどなたでも無料で温室に入館いただけます。

光のプロムナード 11月20日(水)～12月26日(木)

屋外のエントランスの木々が幻想的に輝きます。

●点灯時間: 16時から19時まで

※園内は暗くなっておりますので、足元には十分お気を付け下さい。

●観賞温室利用案内

開館 / 9:30～16:30(入館締切16:00)

入館料 / 大人600円、シルバー(65歳以上)500円、高校生・学生300円(要学生証提示)、小中学生100円

※土日祝日は小中学生の入館料無料

●観賞温室開館カレンダー(● 休館日) ■ 温室入館無料デー

11	12	1
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
・ ・ ・ ・ ・ 1 2	1 2 3 4 5 6 7	・ ・ ・ ① ② ③ 4
3 4 ⑤ 6 7 8 9	8 ⑨ 10 11 12 13 14	5 6 7 8 9 10 11
10 11 12 13 14 15 16	15 16 17 18 19 20 21	12 13 14 15 16 17 18
17 18 19 20 21 22 23	22 23 24 25 26 27 28	19 20 21 22 23 24 25
24 25 26 27 28 29 30	29 30 ⑩ ⑪	26 27 28 29 30 31

※新年は1月4日(土)から開館します。

●交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路 / 磐越自動車道新津ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分

一般道路 / (新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分

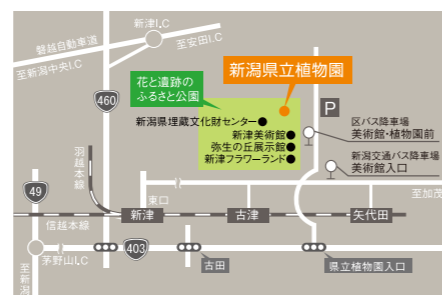
J R / 信越線古津駅から徒歩約25分

バス / 区バス: 新津駅東口から「うららこすど」行き

「美術館・植物園前」下車徒歩約1分

新潟交通: 新津駅東口から「矢代田経由白根・潟東営業所」行き

「新津美術館入口」下車徒歩約10分



新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地

TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410

Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp

ホームページ http://botanical.greenery-niigata.or.jp/

指定管理者 国際総合学園・都市緑花センターグループ



NIIGATA Prefectural Botanical Garden

NEWSLETTER

新潟県立植物園

植物園だより



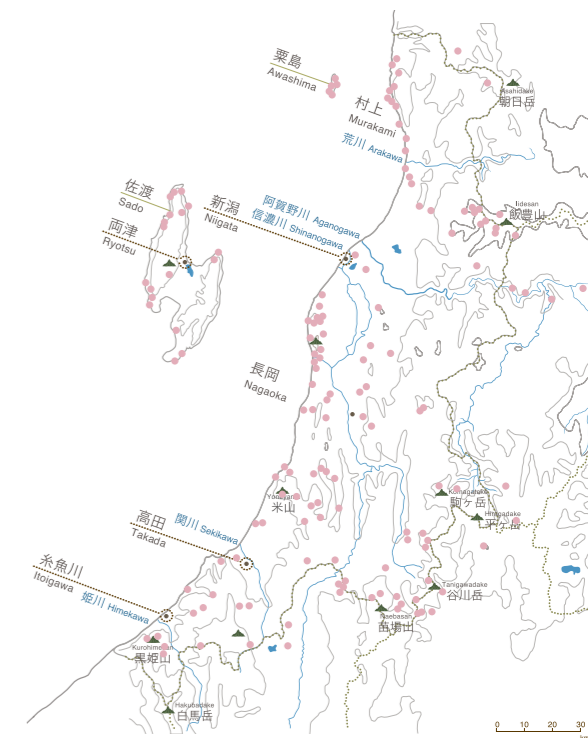
ツリガネニンジン

Adenophora triphylla var. *japonica*
(キキョウ科)

日本各地の草原や林縁にはえている多年草で、釣鐘状の花を咲かせ、根がチョウセンニンジンに似ていることからこの名がつけられた。

若苗や根は山菜として喜ばれ、各地で食用にされる。特に春先の若芽はトキと呼ばれ、おひたし、汁の実、揚げ物、和え物などとして好まれている。

花は9～10月ごろ円錐花序をつくり、4～6段くらいに輪生してたくさんの花をつける。ふつうは青紫色で、群生すると秋の野山はいつそう美しく引き立てられる。 解説: 富樫信平(抜粋)



新潟県植物分布図集 第4集より転載

Volume 53
2013 autumn

クリスマス展

平成25年
11|20(水)–12|26(木)

毎年大人気! 大人も子供もカップルも楽しめる植物園のクリスマスの季節がやってきました。

今年のクリスマス展は、新潟の寒い季節を和ませる赤や緑や白や金色のクリスマスカラー、ポインセチア、シクラメン、プリムラ、クリスマスカクタスなど1500鉢の植物で飾ります。5m大のクリスマスツリー、入ってびっくり!キラキラミラーBOXも登場して、クリスマスの雰囲気を一っそう盛り上げます。

さらに今年は企画展示会場だけではなく、熱帯植物ドーム、水中庭園に植物園ならではの美しいイルミネーションを設置。屋外のイルミネーションもお楽しみいただけます!

夜間開園期間中はふだんとは違う冬の夜の植物園をごゆっくり観賞ください。お待ちしております。



クリスマス夜間開園●12月21日(土)~24日(火) 19:30まで開館
★最終入館19時 ★16時以降ご入館の方にミニプレゼント

クリスマスナイトコンサート 会場:観賞温室第2室
●12月22日(日) 18:00~
「バリチューバアンサンブル」出演:タンブルヴァッツ
●12月23日(祝・月) 17:30~
「クラリネットオーケストラ」出演:クラコン

植物園のお姉さんと作ろう まつぼっくりツリー
●11月23日(土)、30日(土)、12月7日(土)、14日(土)
11:00~
会場:観賞温室第3室 無料休憩スペース
定員:20名(当日受付・先着順) 参加費:50円



企画展示



企画展示

新春 江戸の園芸展 ~古典園芸植物の世界~

平成26年
1|4(土)–2|16(日)

江戸時代は園芸が大流行し、世界一の水準と評価された日本独自の園芸文化が生まれました。その特徴は交配による品種改良でなく自然や栽培下で現れる、通常とは異なった花や葉を持つ突然変異を見出したことにあります。奇妙とも思える葉の斑や、花の絞り、咲き分けなどは、この時代に珍重され、時に驚くような大金で取引されました。しかし、現在は市場に流通することも少なく、古典園芸植物や伝統園芸植物と呼ばれ、愛好家によって保存されているにすぎません。

本展は、ふだん目にするのできないカラタチバナ、マツバラン、ハラン、フクジョウウ、オモト、カンアオイ、イワヒバ、マンリョウ、センリョウ、シュンランなどの貴重な品種を一

堂に会し、隔週で展示植物を替えています。江戸時代の園芸品種と一般的な植物の比較や、園芸の歴史、新潟から全国へ流行が広がった植物をご紹介します。

また、日本のお正月に欠かせない縁起物の松竹梅。松竹梅は中国の宋代より始まった中国文人画「歳寒三友」で好まれた画題のひとつで、松と竹は寒中でも緑を保ち梅は寒中に花を咲かせることから「清廉潔白・節操」という文人の理想を現したものです。企画展示会場にはアレンジされた竹林や古典園芸植物の展示をはじめ、白根の大凧などが正月気分を盛り上げます。

新春の清々しい雰囲気の中、古典園芸植物の魅力をご堪能ください。



左:過去の展示状況 右:ヤブコウジ(紫金牛)を中心とした展示



葉変わりマンリョウ

カラタチバナの芸

植物園開園記念日 12月1日(日)は、温室入館無料デー

新潟県立植物園は平成10年12月1日に正式開園し、今年で15周年を迎えます。開園以来、県民の皆様をはじめ多くの方々に、植栽展示や企画展を通して、季節の花や新潟の植物を楽しんでいただきました。開園記念日にあわせ、皆様への感謝の気持ちをこめて、12月1日(日)は観賞温室の入館料を無料とします。ぜひこの機会に植物園にご来園ください。



園内
ウォッチング

温室●南国ムード満点!ヤシエリア

熱帯植物ドームの中央には、南国を代表する10種類のヤシを集めた「ヤシエリア」があります。

小さな流れを渡って、小道に入っていくと、そこには幹が太く、雄大な姿のダイオウヤシ、幹が竹に似ているコガネタケヤシ、葉が魚の尾ビレの形に似て幹にトゲがあるオビレハリクジャクヤシなどが生い茂り、まるで熱帯のジャングルを探検しているかのような雰囲気を楽しめます。

その中にあるジョオウヤシは一番背が高く、熱帯植物ドームの天井に届くほどの樹高20mに育っています。南アメリカ原産で、羽状の葉がアーチ状に垂下し、優美な樹形からジョオウヤシと名付けられました。熱帯地域では幹を建築用材に、また葉は屋根に利用され、実からは油脂がとられます。花は黄色で房状に集まって咲き、実は緑色で熟すとオレンジ色になります。展望台に上ると、見上げなくてもジョオウヤシの花や実が目線の高さで観賞できるのでおすすめです。(小日向美香)



園内
ウォッチング

園地●水辺の植物

園内にはオニバス等の県内に自生する水生植物を展示している「オニバス池」があります。ここにはトチカガミやガガブタ、オニバスなどが見られますが、ヨシが水面の半分を覆ってしまったり、設置当初に見られたミズアオイやミズオオバコなどの1年で枯れてしまう植物(一年生植物)が観察できなくなっていました。

一年生植物の多くは多量のタネを残し、その一部は翌年の春に発芽しますが、多くのタネは土に埋まり、数年から数十年、時には大賀ハスのように千年以上も生き残り、発芽の機会を待ちます。このように土の中に保存された種子を土壌シードバンク(埋土種子集団)と呼びます。

自然環境では、これらの植物の多くは河川が氾濫する場所(氾濫原)に生育し、土に埋まったタネは、河川が氾濫した場合などに土と共に地表へ運ばれ、発芽の機会を得ます。しかし、放棄された水田や植物園の「オニバス池」のような攪乱の起きない場所では、いつまでもタネが眠った状態で保存され、最後には死んでしまいます。

そのため、今年はヨシを重機で剥ぎ取り、土を掘り起こしていただくところ、ミズアオイやミズオオバコ、ホッソモ、ジャクモの一種など、様々な植物が復活して見られるようになりました。

今年は個体数が少なかったですが、これらの植物がタネを残し、来年は多くの個体が見られるようになると思いますので、復活した植物を観察しに来てください。(久原 泰雅)



復活したミズアオイ

水面にきれいな花を咲かせるミズオオバコ



オニバス池を重機で掘り起こしている様子

NEWS 1 開園15周年

当園では開園15周年を記念してさまざまな企画を行ってきました。ゴールデンウィークの10日間は、これまでのご愛顧に感謝の気持ちを込めて、温室入館料を無料としました。気候のよい春の行楽シーズンということもあり、大変多くの来園者で賑わいました。これをきっかけに久しぶりに植物園に足を運ばれた方も多かったようです。開園当初に比べ、熱帯ドームの植物も大きく成長し、屋外園地の植物も充実しました。久しぶりに訪れた植物園の印象はいかがだったでしょうか。

また、屋外の園路沿い5ヶ所には、ユリの園芸品種10品種6,000本を植栽。4月のサクラ、チューリップ、5月のボタン、ツツジと続く花のリレーのバトンを引き継ぎ、6月下旬から7月中旬にかけて見ごろを迎え、華やかな姿が私たちを魅了しました。

夏休みシーズンにはお子さん向けの企画「食虫植物とおもしろ植物展」や親子教室、キャラクターショーなど多くの催し物を行いました。この期間には中学生以下の温室入館料の無料化も行い、例年以上に多くの親子連れで賑わいました。

開園15周年記念日の12月1日は温室入館料が無料となります。温室ではクリスマス展を開催中。また、開園15周年企画第4弾として、屋外のエントランスでは木々にイルミネーションを施した「光りのプロムナード」もお楽しみいただけます。クリスマスムード満点の華やかな雰囲気の中、多くの皆様のお越しをお待ちしております。
(大谷史絵)

ゴールデンウィークの無料期間の様子(左:熱帯植物ドーム、右:シャクナゲ・ツツジ展)



園地のユリ花壇

NEWS 2

海外との連携調査

昨年に引き続き、オックスフォード大学との県内に自生する植物の調査を実施しました。

オックスフォード大学との調査では、上信越国立公園および阿賀町の御神楽岳、目指岳にて、樹木類や高山生草本類の多様性の保全に関する調査と種子の採集を行いました。

大学付属のハーコート樹木園の樹木キュレーター、ベン・ジョーンズ(Ben Jones)は針葉樹の専門家、世界各地で調査を行っていますが、コウヤマキの北限の自生地、目指岳での調査は特にエキサイティングな経験だったようです。また、付属植物園のガーデンキュレーターのトム・プライス(Tom Price)は草本植物の専門家です。

東京で行われたオックスフォード大学日本事務所の主催する「日本のホットスポット 日本の植生を讀んで」の講演では、北海道大学との調査も含め、166種の調査を行い、大きな成果をあげたことが報告されました。来年度以降も日本での調査は続く予定ですので、今後の成果を期待したいと思います。

また、11月には高知県立牧野植物園、台湾林業試験所と共同で、台湾でのツツジ属植物の調査が昨年に引き続き行われる予定です。昨年採集できなかったセイシカ(*R. ellipticum*)や野生では絶滅したウライツツジ(*R. kanehirai*)等の調査と採集を行います。結果については後日皆様にご報告いたします。
(久原 泰雅)



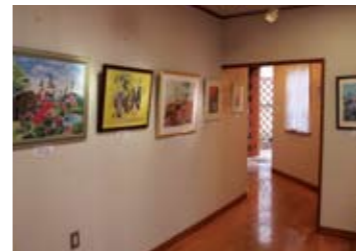
オックスフォード大学附属植物園のようす



熱帯植物がモチーフとなったハワイアンキルトの作品展



ドライフラワーをつかったアレンジメントの作品展



和紙ちぎり絵の作品展

NEWS 3

平成26年度 観賞温室住宅内展示 出展者募集

県立植物園では、花や緑に関連した作品展示、植物や園芸に関する文化紹介、花や緑のある生活の提案などの場所として、観賞温室第3室の住宅内では1つのテーマで2~3週間の展示を行っています。花や緑に関する作品展示の希望者(団体、個人)は植物園企画課までお問合せ下さい。
(渡辺 弘友)

NEWS 4

第2回植物と食文化講座 「紅茶の歴史と味わい方」

企画展示「紅茶展」に合わせて、10月20日に第2回植物と食文化講座「紅茶の歴史と味わい方」を開催しました。

最初に北限の茶どころである村上市で「雪国紅茶」を生産している富士美園の飯島剛志さんから、村上市の茶生産と100年ぶりに復活した紅茶についての講演がありました。

1620年代に茶栽培がはじまった村上市は、明治時代には茶畑の面積が650ha(現在は22ha)と大規模であり、アメリカとロシアに紅茶が輸出されていました。この紅茶を近年復活させたのが飯島さんです。「雪国紅茶」は他産地とは異なり、在来種と呼ばれる実生系のチャからつくられています。香りは弱いのですが、渋みが少なく、甘みがあるのが特徴だそうです。

続いて金沢からお越しいただいた和紅茶プロデューサーの赤須治郎さんからは、「国産紅茶の歴史といま」の演題でご講演いただきました。

輸出産業として明治時代に紅茶が生産されていたこと、今

講演のようす



おいしい紅茶の入れ方



お茶うけも好評(村上の「おらんだカステラ」と能登の「パームケーキ」)



や全国各地で紅茶が生産されていることや、和紅茶の魅力について語っていただきました。

参加者の皆さんには講演中に5種類の紅茶を味わっていただきました。紅茶は、金沢在住のティーインストラクター小川敦子さんに50人分×5種類の250杯分を入れていただき、最後に「おいしい紅茶の入れ方」を披露していただきました。

試飲した紅茶5種類は以下のとおりです。特にアールグレイ(グレイ伯爵)の4代目にあたるイギリスのホウィック子爵から特別に提供された本場のアールグレイの試飲は大変貴重な機会であり、そのすっきりとしたベルガモットの香りが好評でした。

- ・ダーズリン ファーストフラッシュ
- ・雪国紅茶
- ・ウバ
- ・オックスフォード アフターヌーンブレンド
- ・アールグレイ

(倉重祐二)



目指岳山頂で休憩中のオックスフォード大学のベンと筆者

新潟の植物

ガガイモ

Metaplexis japonica

日当たりのよいやや乾燥した原野に生えるつる性の在来多年草と紹介されていることが多いガガイモですが、田の畔で見かけることもあります。

北海道から九州に分布。地下茎を長く伸ばしてふえ、地下茎の途中から芽を出すようで、掘り上げて土を払うと逆Tの字をしています。春先に芽をひょこりと地上に出したかと思うと葉を広げズンズンと伸び出します。

葉は長卵状心形で先が尖り茎を切る白い乳液が出ます。8月ごろになると葉腋から出た柄の先に繸状花序を付けます。花は1センチほどの淡紫色の合弁花ですが、花冠は深く五裂して、離弁花のように見えます。一見地味でも、よく見ると花弁は厚ぼったくベルベットを思わせる細かな毛で覆われ、ゴージャスなつくりをしています。

果実は10センチほどの袋果で違和感があるほど大きく、中に扁平な楕円型の種子がたくさん詰まっています。種子には翼(よく)があり、この翼が艶をもった純白で、ふわりと風に吹かれて飛ばす様子は優美さを感じます。(田中良明)



左:長尾草生園(新潟市)の昭和12年のカタログ表紙のシャクナゲ
右:阪上牡丹園(兵庫県)「園藝報知」大正7年(兵庫県)のバラ

みんなの趣味の園芸セレクション 昔の園芸カタログが面白い

「これも最高だな」、「越後の球根は何故良いか球根充實肥大 価格低廉 品質優秀」
「アザレアの宣伝文句。これ読んだら買いたくなるな」、「御買上の御客様からはキット◇之れは良い苗◇と御満足して頂ける事と固く信じて居ります」
「シャクナゲのもなかなか書けないよ」、「ロードデンドロンは世界的園芸流行界の寵児です 弊園は此植物に最も多くの研究と栽培をなしつつあります」

「それをどうやって解説に使うんですか?」、「う〜ん分かんないけど。何かいいんだよな」と言うことで、打ち合わせの邪魔になっているようでしたので、早々に帰宅しました。

後から長い一言
大正から昭和初期にかけては、チューリップの表記は、チウリブ、チウリツブ、他にもあったと思いますが、揺れがあるようです。

迫力の野菜画

日本で通信販売がはじまったのは明治9年。農学者で、津田塾大学の創立者津田梅子の父である津田仙によって、種苗が販売されたのが嚆矢とされます。日本の通信販売は種苗からはじまったのですが、あまり(と言うか全然)知られていません。当時は鉢物を扱うような花屋がほとんどなかったため、全



(倉重祐二)

レトロな感じ チューリップ展

今度のチューリップ展(※2011年3月開催)は、大正から昭和初期にかけてのレトロな雰囲気を出すようです。展示担当のNとHが打ち合わせをしていたのですが、私は園芸の歴史を調べているので他人の迷惑かえりみず、途中から話に割って入ってしまいました。

「チューリップ展は解説パネルもレトロな雰囲気を出した方がいいよ」と私、「どんな感じにしたらいいんですか」と担当N。

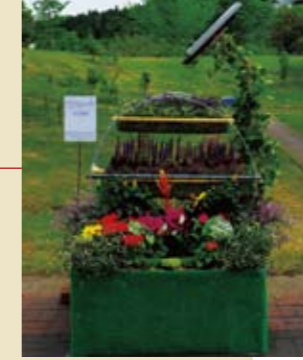
「そうだな、このカタログにある宣伝文句を使ったら。え〜と。長尾草生園の明治42年のカタログ。チウリブ(中略)四五月美麗ナル大花ヲ開ク西洋婦人ノ大ニ愛賞スルモノナリ」

「使えませんか」
「これ、これ好きだな」、「どんなのですか?」、「長尾草生園の昭和6年のカタログ。目覚る如き色彩の美春の花園に一人女皇の如く咲き誇る花はチウリツブに比すべきものはありません」

「それ、さっきから3回くらい言ってたっすよ」と温室担当H。「よっぽど気に入ってるんすね」、「そうだっけ」

「これもいいよ」、「栽培頗る容易にして初めての御家庭にても優良なる球根さへ植込めば陽春の候艶麗な目覚むる如き美花を咲かす事が出来ます」

友の会通信



ミニガーデンコンテスト出展!

いつ花ふるフェスタ(6月2日開催)内のイベントの一つ「ミニガーデンコンテスト」に「さくら会」として出展。みごと最優秀賞を受賞しました。今年のテーマは「水の楽園」。ソーラーポンプを利用して太陽光が当たると水が出るしかけを施しました。水の流れが涼を誘うとともに植物が水を受けていきいきと見え、来場者は足を止めていました。

マイヅルソウは咲き始め

チングルマ



春・夏の植物観察会実施

春(6月9日)

日帰り福島県浄土平へ。浄土平から鎌沼へゆつくりと散策しました。散策路にはところどころ残雪もありましたが、お天気にも恵まれ、たくさんのお花を見つけることができました。

夏(7月28、29日)

長野県北アルプス麓で湿原、高原、高山の植物を観察に、一泊二日の旅となりました。1日目の姫川源流ではバイカモ、親海湿原ではコオニユリ、サワギキョウ、クサレタマなど鮮やかな色が目を引く花々に出会えました。午後の黒沢高原では雨がひどくなり、十分な散策はできず、早めに旅館へ向かいました。2日目は八方尾根でユキワリソウをはじめとした多くの花が見られました。

観察風景



ムラサキヤシオ



マツムシソウ



バイカモ



サワギキョウ



八方尾根の風景

クリスマス交流会開催!

恒例のクリスマス交流会を12月23日(祝・月)に行います。森田会長(新潟大学名誉教授)による植物のお話や抽選会、植物交換会などを行う予定です。13時から2時間程度。参加費は500円(お菓子、飲み物、おみやげつき)です。友の会メールアドレス(bgn.tomonokai@gmail.com)まで、件名を「クリスマス交流会参加希望」として、氏名と電話番号を明記の上お申し込みください。メールによれない場合、植物園までお電話ください。

しめきり●12月15日(日)

新潟県立植物園友の会ブログを開設しています。会の最新情報、会員のつぶやき、発見などをどんどん更新していきます。ぜひ、ご覧下さい。情報はE-mail:bgn.tomonokai@gmail.comまで。

ブログURL http://blogs.yahoo.co.jp/bgn_tomonokai

賛助会員 <わたし達は「新潟県立植物園 友の会」の活動を応援しています> ●有限会社齋藤不動産 ●株式会社アート